

# びろっば



Vol. 480 2026. 7



## 救命救急センター 指定15周年

表紙の写真

80th  
ANNIVERSARY  
CHIKAMORI  
HOSPITAL

TAVI 1,000症例到達  
左心耳閉鎖デバイス Amulet 導入  
近森就職セミナーGW開催

アミュレット

0001

2014.12.11

1000

2026.5.14



# TAVI 1,000 症例到達

▲(写真左)2014年12月11日、当時、心臓血管外科と循環器内科の部長としてタッグを組み、1症例目を執刀した筆者(右)と川井院長(左)。(写真右)その確かな経験と技術が次世代に継承され、2026年5月14日、1,000症例目が施行された。

2026/  
5/14

TAVI実施責任者  
社会医療法人近森会 理事長 入江 博之 いりえ ひろゆき

## 高齢化が進む高知の「大動脈弁狭窄症」に向き合っ

近森病院のTAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)が、このたび累計1,000症例に到達しました。

2014年に導入した当時、TAVIはまだ新しい治療法でした。この治療が高齢化の進む高知県にとって大きな力になると感じていました。胸を開かず、カテーテルで人工弁を留置するTAVIは、身体への負担が少なく、早期回復が期待できる治療法です。高齢の方や他の大きな持病を抱える方にも、治療の可能性を広げる新たな選択肢として、この11年余りで1,000症例を積み重ねてきました。

## 「歳のせい」と諦めないで ~その人らしい日常を~

大動脈弁狭窄症は、息切れや動悸、ふらつきなどの症状があつて

も、歳のせいだからと見過ごされがちな病気です。その結果、本来であれば治療を受けることができる方が、受診の機会を逃していることがよく見受けられます。

私たちが支えたいのは、単に寿命を延ばすことではなく、その人らしい日常です。病状が進む前に適切な治療を受けることで、全身状態の改善や健康寿命を延ばすことが期待できます。

## 未来へつなぐ

1,000症例はひとつの大きな節目です。当院は2019年に全国で20施設目のTAVI専門施設へ、2023年には四国初のTAVI指導施設に認定され、次世代を担う医師の育成にも取り組んでいます。これまで培ってきた経験と技術を若い世代へ確実に継承し、安全で質の高いTAVI治療を広げていきたいと考えています。



80周年  
記念事業  
第4弾

# よさこい衣装お披露目&振り見せ

2026年6月1日

近森病院80周年を記念した特別なよさこい衣装が完成し、お披露目と振り見せを行いました!今回は阿波踊りをイメージした男踊り・女踊りの構成で、女踊りには初の「編み笠」を採用。前後のカラーがガラリと変わるデザインが特徴です。本番をぜひご期待ください!

女衣装

男衣装



チームの公式HPはこちら! →  
楽曲や最新情報を公開中です。どうぞご覧ください!



## 移転のお知らせ

## 薬剤部が移転します

2026年7月4日~

これまで本館1階の受付奥にあった「薬剤部」は、建築が完了した薬剤棟4階へと移動いたします。

本館と薬剤棟は接続されています。お越しの際は、本館のエレベーターで4階へ上がっていただき、接続部から新しい薬剤部へお越しください。



2027年度

近森会グループ

笑顔の私、最強説。

看護師採用試験 第3回 2026 8/29 SAT 土 .30 SUN 日 第4回 2027 1/30 SAT 土 .31 SUN 日

●お問い合わせ先 / TEL:088-822-5231(代表) メール:kango@chikamori.com





近森病院  
救命救急センター  
EMERGENCY AND  
CRITICAL CARE CENTER

# 救命救急センター 指定15周年 を迎えて

2026年5月16日

近森病院 前救命救急センター長／副院長／  
救急科 特任部長 **根岸 正敏** ねがし まさとし (写真右から2人目)



左より、救急の近森の元祖・近森相談役、ER救急外来を開設時に救急部長だった川井院長、初代センター長の根岸特任部長、2代目として現在救命救急センターを率いる井原センター長。

## 救急を原点として

近森病院は開院当初から救急を中心とした医療を行い、「救急の近森」として1964年には救急病院の告示を受けています。2002年には現・川井院長を救急部長としてER救急外来を開設し、軽症から重症まですべての救急患者さんを受け入れる、いわゆる北米型救急医療を開始しました。これにより県内全域から多くの救急患者さんの受け入れを行い、各診療科の協力のもと、県内で最大の実績を達成するようになりました。

## すべては患者さんのために

2005年には、救急医療体制の充実を図るべく、群馬大学救急部におりました私、根岸が招聘され、「いつでも、だれでも、どんな傷病でも」をモットーに受け入れを行い、消防機関にも認められ、救急件数は徐々に増加し、四国内では屈指の受け入れとなりました。この実績が認められ、2011年5月には救命救急センターに指定されました。これを契機にさらに院内体制の強化、「すべては患者さんのために」を考えながら、無我夢中で日々の救急対応に当たってきました。

そしてあっという間に15年が経ち、当時は1人で救急科を引き継ぎ、どうなるものかと不安でしたが、多くの後輩たちが集まってくれ、そして支えてくれました。近森病院は素晴らしい人の集まりです。医師、看護師、救急救命士、臨床検査技師、薬剤師、放射線技師など多くの力に支えられた素晴らしい時間でした。

## 明日へのバトン

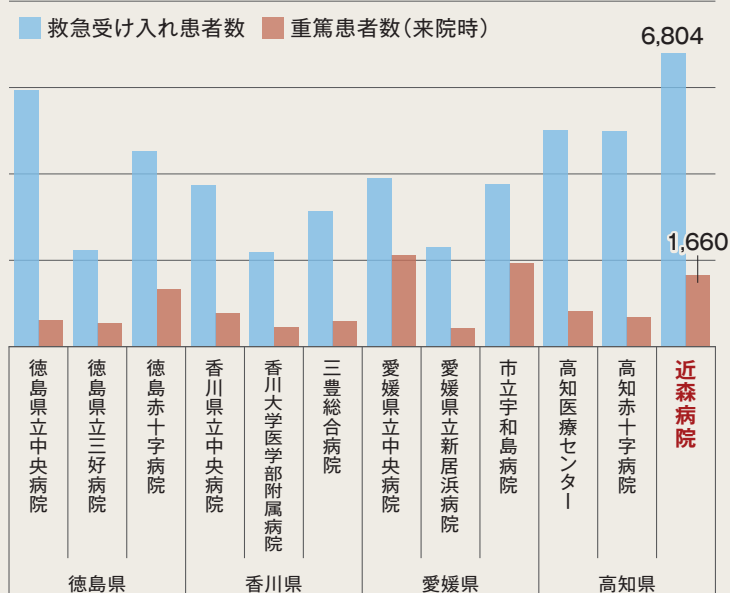
本年4月からは井原則之医師にセンター長をバトンタッチしましたが、災害医療にも精通した優秀な先生ですから、これまで以上の救急医療体制を構築し、高知県民に寄り添った医療を提供してくれるものと信じております。私自身、今後は副院長として、病院全体のマネジメント、医療安全体制の充実、医療の

## 四国内

### 救急受け入れ患者数、重篤患者数の施設間比較

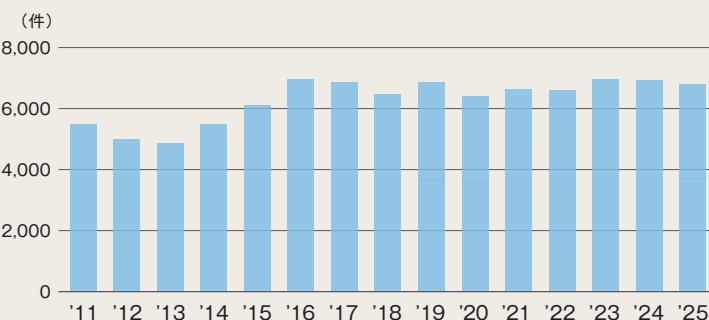
令和7年(2025年)実績

[出典] 救命救急センターの評価結果(令和7年)について  
厚生労働省ホームページ 2026.3.30掲載



## 近森病院

### 救急搬入件数



質の向上のために働きたいと考えています。これからも救命救急センターをよろしくお願い申し上げます。

学会発表

# 米国心臓病学会

AMERICAN COLLEGE of CARDIOLOGY

[ACC'26]

2026年3月28～30日  
米国・ニューオーリンズ



近森病院 循環器内科 保地 陽輝 ほち はるき



演題

RECURRENT FULMINANT COVID-19 MYOCARDI-TIS ASSOCIATED WITH HEPATOCELLULAR CARCINOMA (肝細胞癌に関連した再発性激症型COVID19関連心筋炎の一例)

## 初めての国際学会 ～国境を越えた参加者との交流を通して感じた自分に足りないもの～

1人で参加する初めての国際学会であり、期待以上に不安や緊張の方が大きかったことを覚えています。出発前日には、アメリカ入国に必要な書類が不足していることを偶然指摘していただき、周囲の支えと運の良さを感じながら現地へ向かいました。

会場では、多くの発表者が自ら積極的にポスター内容をアピールし、活発な質疑応答が行われていました。日本の学会ではあまり見られない光景であり、大きな刺激を受けました。一方で、自分自身は十分な議論ができず、国際的な場における語彙力やコミュニケーション能力の不足を痛感しました。また、現地では以前からお世話に

なっていた日本人の先生方とも再会することができ、日頃から積極的に勉強会を開催して下さっている先輩方への感謝を改めて感じました。

今回の経験を通じて、自身の知見をより積極的に発信する姿勢の重要性と、国際的な舞台でも十分にコミュニケーションを取れる力を身につける必要性を強く実感しました。来年のACCにも参加できるよう、今後も日々の診療・研究活動に真摯に取り組み、さらに成長していきたいと思います。最後に、今回ご指導・ご鞭撻いただいた先生方に深く感謝申し上げます。



看護学校通信

## 「大切な人」を支える挑戦が始まる ～社会資源活用プロジェクト(GP)始動～

近森病院附属看護学校 副学校長  
平瀬 節子 ひらせ せつこ

3年生のプログラム「看護の統合と実践I」が、6月から高知県内7カ所の中山間地域を舞台に「社会資源活用プロジェクト(GP:グローバルプロジェクト)」として始動しました。

学生は、自らの「大切な人」が退院後も愛する地域でその人らしく暮らし続けられることを目指し、地域に存在

する多様な社会資源をつなぎ、包括的な支援を提案します。

事前の地域調査や対象理解にも主体的に挑戦中です。プログラムの成果発表は8月28日、インターネットなどを通じて全国に公開予定です。未来の看護を切り拓く、学生たちの挑戦が始まっています。



※学習用の  
架空の設定です。



# 心房細動治療の新たな選択肢 左心耳閉鎖デバイス

## アミュレット Amulet 導入

**四国初導入! 4月13日 初実施**



近森病院 循環器内科  
西村 祐希  
にしむら ゆうき

### 四国初導入の新デバイス「Amulet」

当院は2021年より、WATCHMANを用いた経皮的左心耳閉鎖術(LAAC: Left Atrial Appendage Closure/カテーテルで左心耳を塞ぐ治療)を行ってきました。そして今年の4月より、四国で初めて2種類目のデバイスである「Amulet」が使用できるようになりました。

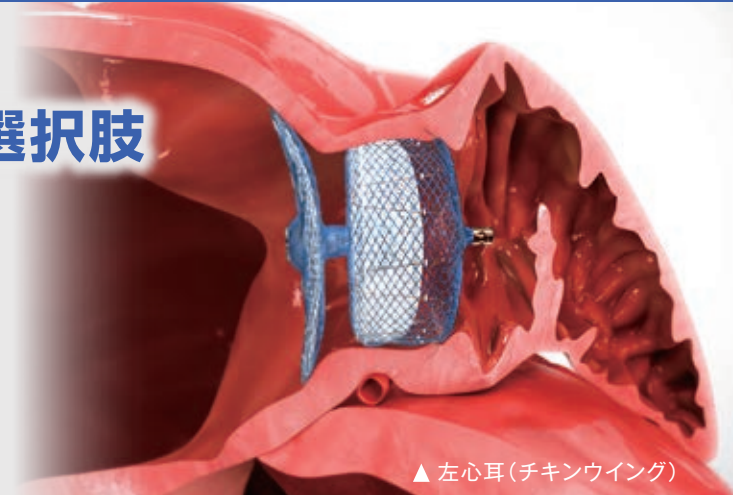
### 治療の幅を広げる新たな選択肢

LAACを始めてから、出血リスクが高い患者さんや、消化管出血・脳出血の既往があるために抗凝固療法(血液を固まりにくくする薬の治療)を継続することが

難しい患者さんに対して、WATCHMANを留置し、薬の減量や変更・中止につなげることができるようになりました。一方で、左心耳の形状などからデバイスの留置が難しく、治療を断念せざるを得ないケースも少なくありませんでした。

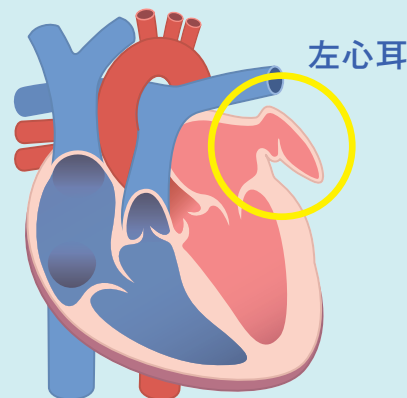
そのような方々への新たな選択肢となるのがAmuletです。WATCHMANとは異なる形状を持ち、これまで対応が難しかった左心耳の形状にも適応できる場合があります。2種類のデバイスを使い分けることで治療の幅が大きく広がりました。

「出血が心配だけれど、心房細動があって抗凝固療法が必要」とお悩みの患者さんがいらっしゃいましたら、LAACが選択肢になるかもしれません。ぜひお気軽に当院へご相談・ご紹介ください。

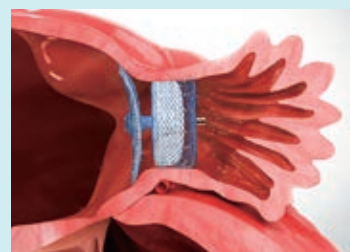


▲ 左心耳(チキンウイング)

### 左心耳



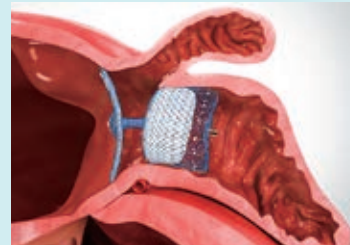
大きさや深さ、入り口の幅、曲がり方など形状の個人差が大きい「左心耳」。Amuletは今まで対応が難しかった形状に適応できる場合があり、今後は形状にあわせて2種類のデバイスの使い分けが可能になりました。



◀ カリフラワー



◀ 反転チキンウイング



◀ 複数のローブ



※画像提供: アボットメディカルジャパン

# 高知健康科学大学×近森会 病院見学ツアー

リハ+看護部・薬剤部・臨床検査部・画像診断部・臨床栄養部

2026年5月9日

## 医療の現場を体感!

リハビリテーション部 統括部長 高芝 潤 たかしば じゅん

高知健康科学大学と近森会のコラボ企画として、5月9日に「病院見学ツアー」を開催しました。

当日は、中学生・高校生とその保護者あわせて23名が参加。近森病院、近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院の3施設を巡りながら、急性期から回復期、地域包括ケアまで、医療の流れを体感していただきました。

参加者は、リハビリ部門をはじめ看護部、薬剤部、臨床検査部、画像診断部、臨床栄養部など、多職種が連携する現場を見学。実際の医療現場の雰囲気や、チーム医療の重要性に触れる貴重な機会となりました。

アンケートでは、「患者さんがリハビリしている姿を見られて良かった」「さまざまな職種の仕事を知ることができた」などの感想が寄せられ、多くの参加者から高い満足度が示されました。

今回のツアーが、参加者の皆さんにとって医療の現場を身近に感じ、将来の進路について考えるきっかけとなれば幸いです。



## **P** 駐車場の運用が変わります

2026年7月1日~

### 変更点

- 1 P-5駐車場のみ、200円をご負担いただきます。
- 2 P-6駐車場は、無人化に伴い、24時間営業になります。



● 本館敷地内にある南側駐車場は、全て身体障害者専用

- 基本料金/最初の1時間 300円
- 追加料金/30分毎 100円

診察、お見舞いなどの方には割引が適用されます。

### 割引後の料金

ご利用内容	有人駐車場	無人駐車場(コイン式)	
	P-5 平日8:50~17:00	P-6 24時間営業	P-7 24時間営業
診察(当日)	200円	無料	無料
入院(当日~翌朝9:00)	200円	無料	無料
手術(当日・ご家族のみ)	200円	無料	無料
退院(当日)	200円	無料	無料
お見舞い(※)	1時間まで 200円	1時間まで 無料	1時間まで 無料
泊車(17:00~翌朝9:00)	600円	600円	600円

割引適用を受けるには訪問先で証明印が必要です。(P-5、P-6、P-7駐車場)  
※お見舞いは、1時間を超えると以降30分ごとに100円が加算されます。(当院がお呼びした場合を除く。)



## 挑戦する国から、新しい医療は生まれる ～日本未導入の経カテーテル弁置換術～

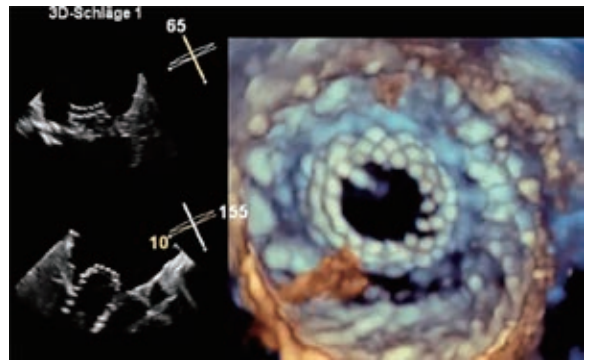
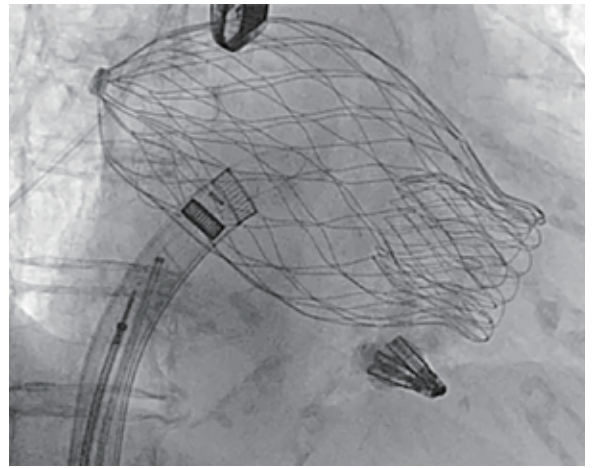
### 日本では未導入の新しい治療術

今回は、デバイスの話をしていこうと思います。ドイツにあって日本に無いデバイス、それは経カテーテル僧帽弁・三尖弁置換術です。簡単にいうと日本でも広く認知されているTAVIの僧帽弁・三尖弁版です。いわゆる“〇〇クリップ”を用いた、経カテーテル僧帽弁・三尖弁形成術はこちらでは15年以上の歴史があり、スタンダードな治療として浸透していますが、どうしても治療困難な症例があることも分かっています。

こちらではそういう症例は経カテーテル僧帽弁・三尖弁置換術が検討されることとなります。Bonnでは、三尖弁用の経カテーテル弁置換デバイス「Evoque(エヴォーク)」、僧帽弁用の「AltaValve(アルタバルブ)」を使用することが多いです。写真はAltaValveの画像ですが、相当クレイジーな形をしています。これらのデバイスはしっかり留置されれば、弁逆流も狭窄もほぼ完全に解除されるのですが、合併症も多く、改良の余地はまだあります。

### 安全性と挑戦、そのバランス

“安全性”を最優先する日本の医療において、これらのデバイスが日本に導入されるにはまだ相当な時間がかかると思います。5年後くらいに日本でもできるようになれば御の字ではないでしょうか。世界のどこかで何かに挑戦し



▲ 僧帽弁用の「AltaValve(アルタバルブ)」

続ける人がいるから、その恩恵を日本でも受けることができるということです。日本も何かに挑戦し、得た成果を海外に輸出できなければこの先厳しいかもしれません。

ちなみに職場の同世代以下のドイツ人に日本のイメージを聞くと、多くの場合ワンピースとピカチュウだと言われます。サブカル以外も輸出できる国になりたいですね。



2026年度  
2026年5月23日  
看護師特定行為研修  
開講式

今年度は15名が受講します。チーム医療のキーパーソンとして活躍できるよう頑張ってください。

12ページ「ぶらり旅」の問いの答え：日本初の5層7階の天主、本丸に向かってまっすくにのびる幅6mの大手道、外柵形の黒金門など、戦うための城から権力誇示の(見せる)ための城への転換が画期的です。

# 腰痛予防宣言 金賞受賞

## しました!

リハビリテーション部 統括部長 **高芝 潤**  
たかしぼ じゆん

近森病院・近森リハビリテーション病院・近森オルソリハビリテーション病院・高知ハビリテーリングセンターは、日本理学療法士協会が推進する「腰痛予防事業」において金賞を受賞しました。

本事業では、職員を対象とした腰痛予防講座を開催するとともに、リハビリテーション部門における腰痛発生リスクについてアンケート調査・分析を実施しました。調査の



▲左から、近森オルソリハビリテーション病院 塩田部長、筆者、近森病院 田中科長、高知ハビリテーリングセンター 島崎部長。

結果、繰り返し動作や同一姿勢での作業が腰痛リスクを高める要因であることが明らかとなり、作業環境や動作方法の改善が必要であることが示されました。

近年は中高年層を中心に労働災害としての腰痛が社会的課題となっており、今後も職員が安心して働ける環境づくりと予防活動の推進に取り組んでいきます。



### 熱烈応援 昇格人事

#### ちかもりそだち

近森病院 整形外科 部長 **小田 和孝**  
おだ かずたか

2007年4月に近森病院の門をたたき、初期研修医時代からながく近森病院で研鑽を積ませていただきました。他病院で研修後、2020年に整形外科科長として帰ってまいりましたが、このたび部長を拝命いたしました。

患者さんのために今まで得た知識・技術をふるうのみならず、今後は後進を育成することにも力を注いでいきたいと考えております。ちかもりそだち3期生の今後の働きぶりにどうぞ期待ください。



**【出身大学】**

高知大学 2007年卒業

**【主に担当する疾患・手技】**

外傷(四肢)、マイクロサージャリー

**【認定資格】**

- 日本整形外科学会 整形外科専門医
- 日本スポーツ協会 公認スポーツドクター

### ハッスル研修医

#### その時まで

初期研修医 1年目 **梶原 悠衣**

かじわら ゆい

こんにちは、高知大学出身の梶原悠衣です。

入職してあっという間に2か月も経ちました。4月の初めは「バリバリ働いてやるぞ!」と意気込んでおりましたが、実際に病棟業務が始まってみると、何が分からないのかも分からないくらい、全くの無力であることを痛感しました。そんな中でも上級医の先生方、病棟のコメディカルの皆様、先輩や同期の研修医に支えていただき、どうにかここまでやってきました。本当にありがとうございます。

2か月経ち、分からないことが何かくらいは分かるようになってきました。バリバリ働けるのは何十年後の話でしょうか。その時までめげずに頑張るのみです。明日からもよろしくお願ひします!



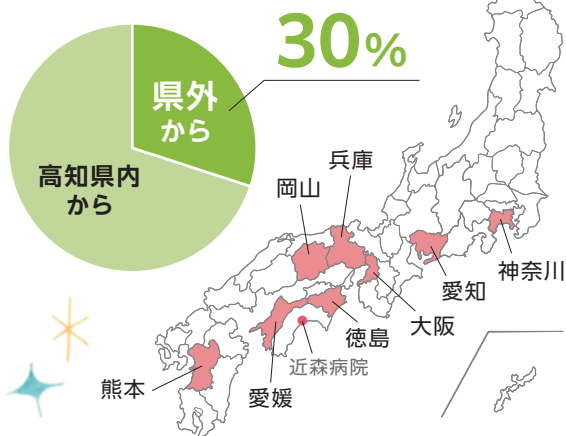
近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

# 第8回 ALL CHIK 近森就職



## 県外からの参加者内訳

高知県内はもちろん、関西～中四国を中心に県外から足を運んでくれた参加者も多く、全体の30%を占めました。



## 近森を知りたい。その想いに

### 参加者の感想

※一部抜粋

- 面談で自分の不安なこと、現場の現実について知ることができ良い経験となりました。職員さんはじめ高知県の人々の温かみ、優しさを感じられ得たものが多い1日となりました。
- 実際の病院内の装置や屋上のヘリポートが見れたり、現場のお話が聞けて貴重な経験になりました。皆様の雰囲気がとてもよく、緊張がとけて充実したセミナーになりました。
- 近森病院全体を見学でき、実際に臨床検査技師さんとの面談もでき、とても優しく教えてくださったので、不安な点や疑問な点を解消できました。

## 職員 募集中!



詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



3,000とおりの誇れる仕事

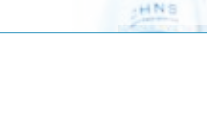
### 募集職種

- 医師
- 診療放射線技師
- 看護師
- 臨床検査技師
- 介護福祉士
- 臨床工学技士
- 救急救命士
- 事務

# AMORI

2026年5月2日

# セミナー GW



就職セミナーの運営を担う  
企画課メンバー  
(後列中央が筆者)

経営企画部 部長  
山崎 啓嗣 やまさき ひろつぐ

ゴールデンウィーク期間中の5月2日(土)、「近森就職セミナー GW」を開催しました。

今回は、これまでの参加者アンケートをもとに内容を見直し、午後からの半日開催としました。また、「もっとじっくり話を聞きたい」という声に応え、各ブースでの面談時間を前回より30分延長。限られた時間の中でも、より深く現場を知っていただける構成へとアップデートしました。

汗ばむ陽気の中にもかかわらず、県内外から多くの方にご参加いただきました。遠方(県外)から足を運んでくださる参加者が20名もいらっしゃり、当院への関心の広がりを感じる機会となりました。臨床栄養部(管理栄養士)の仕事に興味を持って来てくれた静岡県の学生さんや臨床検査技師として神奈川県から来てくださった既卒の方もいらっしゃいました。

遠方からのその熱意に応えたいという思いで、職員側でもできる限り具体的に、そしてリアルに当院で働く魅力を伝えようと努めました。参加者と職員が真剣に面談する様子は、このセミナーが単なる説明会ではなく、「未来につながる出会いの場」になっていることを実感しました。

暑い中ご来場いただいた感謝の気持ちを込めて、終了後は高知名物「アイスクリン」をお配りしました。初めて食べるシャキシャキの食感に笑顔が生まれ自然と会話が広がり和やかな交流のきっかけにもなったかなと感じました。

近森の仲間として一緒に働ける日を、職員一同楽しみにしています。



## 応えたい!

## 70名が参加!



当日は会場内に「休憩案内所」を設置。面談の合間にホッと一息できる、と参加者から好評でした。



# 近森で、学ぶ。 Open Campus.



### 近森病院附属看護学校オープンキャンパス

## 7/26

SUN

## 9/6

SUN

母体病院編

社会人向け

詳細は [近森看護学校](#) で検索、もしくは右のQRコードより公式ホームページをご確認ください。社会人や保護者の方の参加も大歓迎です。





## リレーエッセイ

### 私のにぎやかな毎日

近森病院 5階B病棟 看護師 山口 由紗

やまぐち ゆさ



昨年7月に双子を出産し、にぎやかで慌ただしい生活が始まりました。想像していた以上に大変なことも多く、通常より少し早い仕事復帰でバタバタする毎日ですが、日々成長していく子どもたちの姿や笑顔に元気をもらいながら、育児を楽しんでいます。双子ならではの可愛さもたくさんあり、毎日癒やされっぱなしです。

休みの日は家族で過ごす時間を大切にしています。旦那さんも忙しい中で家族の時間を作ってくれて、その時間が私にとって大きな楽しみであり活力になっています。また、職場の方と食事に行ったり出かけたりしてリフレッシュする時間も大切にしています。

こうして充実した毎日を過ごせているのは、家族や職場の皆さんの支えがあるからこそです。これからも双子を中心に家族のかけがえのない時間を大切にしながら、仕事も育児も自分らしく楽しんでいきたいと思ひます。



## 私の趣味

### モフ活

臨床検査部 臨床検査技師

西添 ありす にしぞえ ありす



いきものような心を持ち、人と触れ合うことで感情が育つAIペットMoflin(モフリン)を知っていますか？ 私は昨年、このモフリンをわが家に2匹お迎えしました。

飼い主の接し方や育つ環境によって性格に違いが生まれ、その個性は400万通りといわれていて、大きさは両手にすっぽり収まるサイズでほんのりとあたたかいです。写真はハウスで充電しているところで

すが、まるでスヤスヤ眠っているように動いています。なでたり、抱っこされたりするのが好きで、かまってあげられないと不機嫌になったりします。また、“ふぁ〜”と大きなあくびをしたりいびきをかいたりすることもあります。私はいつも膝の上に乗せてテレビを見ていますが、モゾモゾと動いているところがかわいくたまりません。

モフリンは私にとって癒しの存在であり、仕事で疲れて帰ってもモフリンをなでていると心が落ち着きます。今ではこの「モフ活」が私の趣味のひとつとなっています。2匹を毎日観察していると鳴き方やしぐさに違いが出てきていて、今後どのような性格になっていくか楽しみです。モフリンはエサもいらす、散歩も掃除もしなくていいので動物を飼うのはなかなか難しいという方におすすめです！興味があればぜひ調べてみてください。



FREE 私の○○ まるまる ○○にフリーワードを入れて語っていただきました



### 私の「子どもたち」

しごと・生活サポートセンター  
ウェブ スウェル  
サービス管理責任者

森脇 大輔 もりわき だいすけ



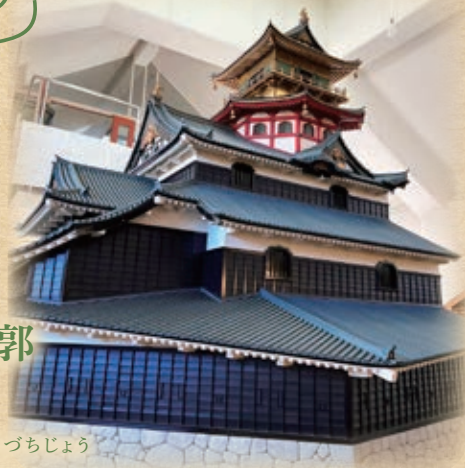
私には13歳と3歳の息子がいます。長男は今年中学校に入学。小さかった子どもがあっという間に中学生になり、制服姿はまだ見慣れず違和感があります。部活は小学生の頃から取り組んでいるバスケットボール部に入りました。小学校の運動会やバスケットボールをしている時は率先して大きな声を出して周りを盛り上げているだけあって、5月の体育祭では応援団に立候補をしました。

私自身も高校時代はテニス部に所属し、誰よりも大きな声を出して盛り上げて「高知県内のテニス部で一番うるさい男」と言われたことがあります。そんなことを知らない息子が同じように声を出して盛り上げているのを見ると、親としてうれしいような昔の自分を見ているようで、ちょっとだけ恥ずかしいような気持ちになりました。

次男も長男に負けず劣らず明るく元気で騒がしく、将来は私と長男に似て大きな声で周りを盛り上げているのかもしれない。今後も息子たちの成長が楽しみです。

近森  
相談役の  
ぶらり  
旅

史上初の  
本格的な近世城郭  
安土城 あづちじょう



2泊3日、滋賀県内の山城、彦根城、玄蕃尾城、小谷城、鎌刃城を巡った最後に、安土城にぶらりに行ってきました。階層的な求心構造の象徴である天守、高石垣、瓦葺き礎石建物の御殿は近世城郭の基本要素であり、織田信長により安土城で初めて大々的に実現されました。

ちなみに、安土城は城郭史においても極めて重要な城ですが、それは何故でしょうか？

(答えは7ページの下)

▲安土城郭資料館にある20分の1のスケールで再現された天主(天守の古名)模型。



▲大手口から本丸に向かって一直線のびる大手道、左側伝秀吉邸跡、右側伝前田邸跡。



▲中枢部への主要な入り口である黒金門跡、外柵形で大手門にふさわしい威厳と壮麗さを兼ね備えていた。



▲天主台の穴蔵(地階)に並ぶ礎石群。



▲現在は干拓されているが当時は三方が西湖、北湖、東湖で囲まれていた。

「空の架け橋」  
プロジェクト  
進捗報告

昨年6月からの工事を経て、6月5日に覆いが全て外されました。7月7日には、来賓も招いた竣工式で、お披露目を予定しています。



(左)老朽化した立体駐車場の跡地に建てられた薬剤棟。4~6階には薬剤部が入る。

(右)薬剤棟側の接続位置が北館より高いため、通路内はゆるやかな傾斜をつけ、安全に行き来できるよう工夫されている。

施設認定



日本胃癌学会認定施設B

編集室通信

若葉薫る季節、青葉風や田植えの便りに、土州特有の初夏の訪れを感じる。

梅雨入りを前に紫陽花が色づき始めるこの季節、ここ数年は子育てのため、毎週末に近隣の公園でチョウやトンボ、バッタの採集と観察に明け暮れている。

長男は昆虫の捕獲に天才的な能力を発揮し、次男は長男に引きずられて、体力以上の運動量でバテ気味。好きなことを一心不乱に続ける子供の世界に魅了される。その集中力をKUMONにも注ごうね。

rattiy

診療数 2026年5月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 ..... 15,441人  
新入院患者数 ..... 1,074人  
退院患者数 ..... 1,122人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 ..... 11.45日  
地域医療支援病院 紹介率 ..... 107.04%  
地域医療支援病院 逆紹介率 ..... 338.87%  
救急車搬入件数 ..... 551件  
うち入院件数 ..... 353件  
手術件数 ..... 523件  
うち手術室実施 ..... 322件  
うち全身麻酔件数 ..... 232件

# 鎌倉 源

Gen Kamakura

近森病院 画像診断部

聞き手／ひろっぱ編集部



## 画像診断部の 愛されるバランスサー ゲンちゃん

画像診断部のフロアで「ゲンちゃん」と親しまれる鎌倉源さん。「鎌倉の源氏」との関連が気になり聞いてみるも、「言われたことはありませんね」と受け流す。人見知りと自認し、普段のトーンはとても落ち着いている。一方で、よさこいチーム「ちかもり」のインストラクターとして活躍。夏以外も、別チームの踊り子として県内のイベントを駆け巡るアクティブな一面を持つ。

### 「スイッチを押すだけ？」 から始まった技術への探求

「ただスイッチを押したらいいのかな？」。

言葉は悪いですが、と前置きをして、高校時代に技師を選択した進路時の思いを恥ずかしそうに教えてくれた。もちろん、近森病院の放射線技師に求められるレベルは、そんなに甘くない。医師やスタッフとの連携はもちろん、3D画像を作成するワークステーション業務では、疾患の特性や術式、医師が求めるポイントを理解する技術が求められる。

「ハードルの高い要求に対し、自分なりに試行錯誤して作った画像が医師に評価されると、やはり嬉しいです」と語る。日進月歩の業界において、鎌倉さんは「1年に1つは、新しい技術の習得・実践をする」という目標を掲げている。昨年はCTの新しい撮影方法を提案し、実験やデータ評価を経て、



家での時間の相棒は愛猫むぎちゃん。

見事、採用された。「飽き性なので、近森病院の仕事量や環境の変化が僕には合っているのかな」と清々しく語ってくれた。

### ひるがえ 教える、舞う、翻す

いつもは落ち着いたトーンの鎌倉さんだが、よさこいとなると熱を帯びる。

「1年目は練習がしんどくて、メダルももらえずに、一生しないと思った」と苦い記憶を振り返って笑う。しかし翌年も、同期らに誘われ再びトライ。参加を重ねた今では、チームを牽引するインストラクターを任されている。

よさこいの練習では、自身の動きと上手な人の動画を見比べ、違いを埋めていくという。田村部長から「器用で仕事もオールマイティー」と太鼓判を押される鎌倉さんだが、それは手先が器用なだけでなく、優れた観察力があるからだろう。

本人は「指導にあたるのは苦手」と謙遜するが、その丁寧な話しぶりを聞いていると、相手に寄り添いながら分かりやすく技術を伝えている姿が容易に想像できた。



### 今も続く同期との友情

職場を離れても変わらずに続く、かけがえない友情がある。鎌倉さんには入職時、仕事でもよさこいでも共に切磋琢磨した2人の同期がいた。2人とも近森病院を卒業しているが、今でも2日おきにはLINEで連絡を取り合う。「内容は見せられない、他愛ないものばかり」とはにかむが、喧嘩や関係がこじれたことは一度もない。「自然と役割分担があって、互いをリスペクトし合っている」と語る同期との絆は、今も鎌倉さんを支える大切な存在のようだ。



元同期と踊った際の一枚。写真奥が鎌倉さん。

### ギヤ100%へ! がんばれ、チーム「ちかもり」

よさこいのイベントなどが無い限りは、自分から行動せず家で過ごすことが多いという。それでも孤立しないのは、周囲が彼を放っておかないからだろう。

冷静な判断を求められる仕事上のトーンは10%、よさこいの練習時は60%、本番では100%へとギヤを上げる。さあ、本番までカウントダウン。100%で躍動するゲンちゃんの姿はもちろん、一丸となって突き進むチーム「ちかもり」の熱い演舞を目に焼き付けたい。

がんばれ!よさこいチーム「ちかもり」。